

令和3年度 山梨県立北杜高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	
本年度の重点目標	主体的・対話的で深い学びを目指す。
	問題解決能力及び共生・共感を培う人間関係づくりを推進する。
	規範意識の向上を図り、個性豊かな人間性の育成に努める。
	家庭・地域・関係機関への教育活動の周知及び連携の推進を図る。
達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

山梨県立北杜高等学校校長 池谷 佐知子

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
番号	評価項目	本年度の重点目標	
		具体的方策	方策の評価指標
1	主体的・対話的で深い学びに向けた指導の充実	やまなしスタンダードを活用し、授業の理解度70%以上を達成できる授業づくりの工夫改善に努める。 シラバス、学習の手引き、クラッシーを活用し、基礎学力及び家庭学習の定着に努める。 ICTを活用し、授業準備の効率化や負担軽減に努める	生徒・保護者・職員・学校評議員による評価アンケート、生活実態アンケートなど ○授業の工夫や検定について ・約9割の生徒、約7割5分の保護者が肯定的に回答。生徒の8割は授業内容を理解していると回答している。 ○家庭学習について ・平日は約4割、休日は約3割の生徒が家庭学習1時間未満だが、家庭学習時間が昨年より増加した生徒は5割に上る。 ・先生方が積極的にICTを活用して授業等に取り組み、授業準備の効率化や作業の負担軽減に繋がった。
2	問題解決能力及び共生・共感を培う人間関係づくりの育成	様々な体験活動や部活動等への積極的な取り組みを通して、コミュニケーション能力を高める。 自己を正しく理解させ、在り方や生き方について考えさせる取り組みを実践し、自己有用感や充実感を育む。	生徒・保護者・職員・学校評議員による評価アンケート、生活実態アンケートなど ○部活動・委員会・HR・生徒会活動などについて ・約9割の生徒・職員が、学校は積極的に指導し、生徒自身も積極的に取り組んでいると回答している。 ○良好な人間関係の構築や社会性の育成について ・生徒の8割・職員の9割以上が肯定的に回答している。
3	規範意識の向上を図り、個性豊かな人間性の育成	基本的な生活習慣の確立及び集団生活のルールやマナーを身に付けさせる。 生徒の主体的な活動を推進し、自主自立の精神と道徳性の向上に努める。	生徒・保護者・職員・学校評議員による評価アンケート、生活実態アンケートなど ○モラルやルールを守る態度の育成について ・約9割の生徒・職員の9割以上が、学校は適切に指導していると回答している。 ○学校生活の主体的な活動について ・8割以上の生徒が積極的に取り組んでいると回答している。また、職員の8割以上が適切に指導していると回答している。
4	家庭・地域・関係機関への教育活動の周知及び連携の推進	学校ホームページや便りによる情報発信を工夫し、ホームページ等の充実を図る。 地域の企業や関係機関との交流を深め、地域に開かれた学校づくりに取り組む。 授業等において効果的な外部人材の活用に取り組み、業務の役割分担・適正化に努める。	生徒・保護者・職員・学校評議員による評価アンケート、生活実態アンケートなど ○学校の情報提供について ・約9割の生徒、7割以上の保護者が、情報が適切に伝えられたと回答している。 ・日々学校HPを更新し、最新の情報提供に努めた。 ○地域と協働する機会について ・8割以上の生徒・職員、約7割の保護者が、学校は地域を理解する機会を設けていると回答している。 ・コロナ禍で外部人材の活用に苦慮した。

学校関係者評価	
実施日 (令和4年3月10日)	
評価	意見・要望等
3	・コロナの影響により、従来の授業が難しい状況ではありますが、新しい方法を用いるなど工夫されている。 ・コミュニティースクールの先取りとも言える総合学科の更なる躍進を期待するとともに、普通科の変革をも期待するところである。 ・授業の「めあて」の明確性に生徒と職員ズシが見られるが、解消により家庭学習にも効果が出ると思われる。 ・より一層の基礎的な知識、技能定着に向け、指導の工夫や思考力・判断力・表現力等の能力向上のためのアクティブラーニング等の更なる推進を期待します。 ・オンライン授業では課題もあると思うが、工夫し成果が上がることを期待している。
3	・生徒の自己肯定感を高めるために、学校及び職員も様々な取り組みをされていると思われるが、更なる創意工夫により大きな成果を期待するところである。 ・生徒が、自ら考え、判断し、問題解決に向け行動に移すことは、これからの社会を生きていく中で、大変意義のあることである。教育活動の中で、生徒に身につくよう指導をしていただきたい。 ・部活動、体験活動等、活発な取り組みがなされていると考えます。 ・生徒の家庭環境を理解し、実情に合わせた丁寧な指導が行われている。
3	・教育目標の一つである徳育については、学校教育の限界があり家庭や地域の協力が不可欠であると思われる。保護者アンケートの中に、この件に関しての自己評価的な項目を入れることも必要かと思われる。 ・基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成については、教職員、保護者の共通理解を大切に、粘り強く取り組んでいただきたいと思います。 ・学力以外にも、生活習慣やルールなどの定着に、積極的に取り組んでいると思います。
4	・学校の存在価値は高い目的意識を有した生徒がいかに入學してくるかで決定づけられると思われるので、今後とも人づくりをモットーに更なる地域に根差した、地域に愛される、地域の中学生が学びたい学校づくりに期待するところである。 ・HP等の更新がリアルタイムで行われており、学校の様子がよくわかり、生徒が活躍していることをうれしく思う。 ・広報紙やPTA新聞の内容が充実しており、地域との連携が図られている様子がよくわかり、素晴らしいと思う。 ・食社北社は地域事業者と高校生が協働し、信頼関係ができていることが成功につながっている。SDGsも視野に入れられ、今後も成果にも期待する。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。